

営農ウィークリーNEWS

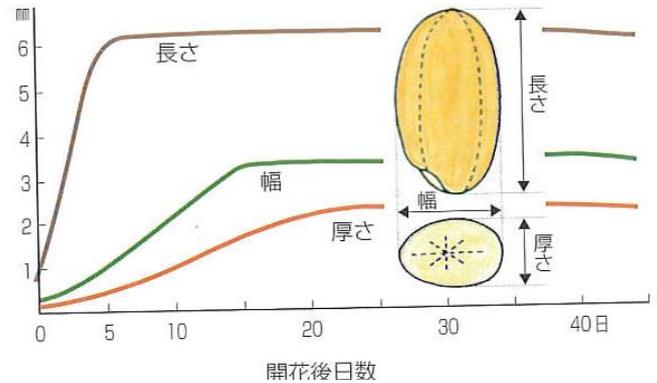
たいせつな出穂後の栽培管理

《水管理》

早生種の出穂が始まりましたが、今年は例年よりやや早めとなっています。

出穂後の管理は、高温の場合、特に夜間温度が下がらない場合は、日中に蓄えた同化養分が消耗し、白未熟粒や厚みに欠ける充実度の低い玄米が発生します。

日中の光合成を最大にするには、水分欠乏で気孔が閉じないよう根の活性を高めることが重要です。そのために、間断灌漑やかけ流しにより根への酸素供給を高めることが大切です。



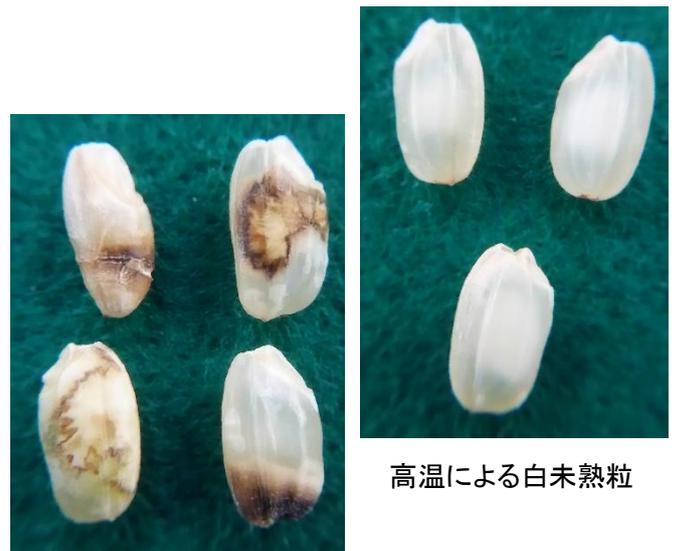
玄米の充実過程 (「作物学の基礎 I」より)
出穂 25 日頃まで玄米の厚みが増していきます。早期落水は厳禁です。

《病虫害防除》

昨冬が暖冬の影響で、カメムシの発生が例年より多くなっています。カメムシの被害粒は、1等米では0.1%以内、2等米では0.3%以内、3等米では0.7%以内と農産物検査規格で決められています。

ここ数年、高温による白未熟粒や充実不足に加え、カメムシの被害粒による格落ちが目立っています。

適期防除で、カメムシ被害をなくしましょう (裏面参照)。



カメムシによる被害粒

高温による白未熟粒

—TAC information—

多収米「ほしじるし」出穂始まる



写真は、伏見区向島の水稲圃場で出穂の始まった業務用多収米「ほしじるし」です。

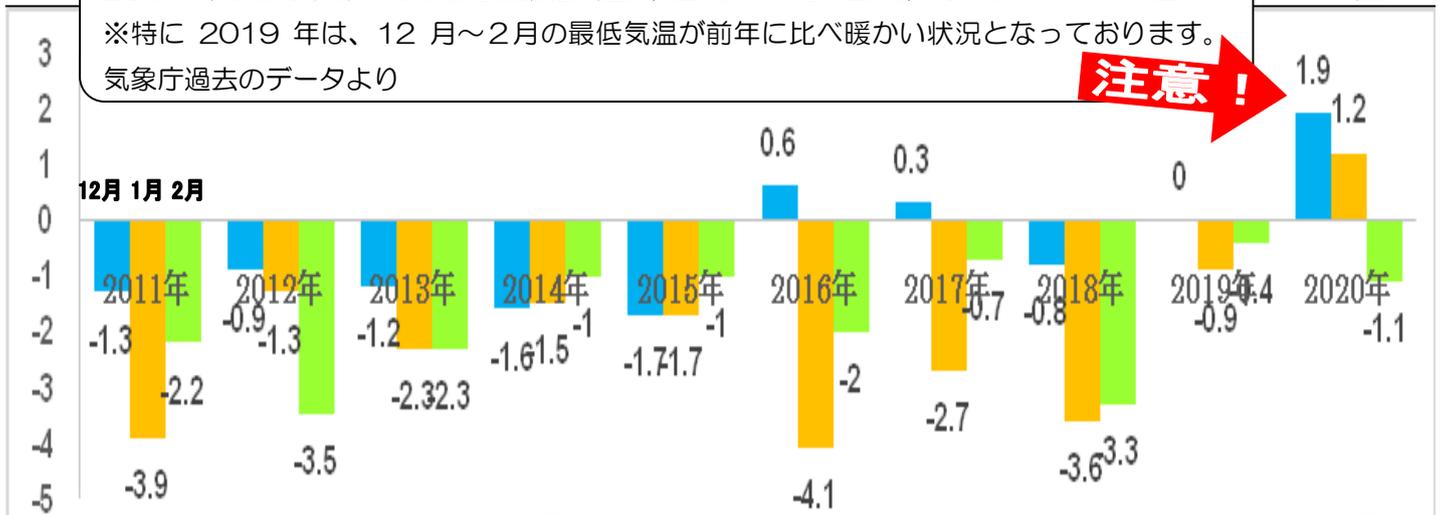
これは、本年、JA全農が全国で取り組んでいる多収品種の試験栽培で、全量、全農を通じて業務用として出荷されます。今後、どれくらいの収穫となるか楽しみです。

暖冬の影響による「カメムシ類」の発生量に注意してください！

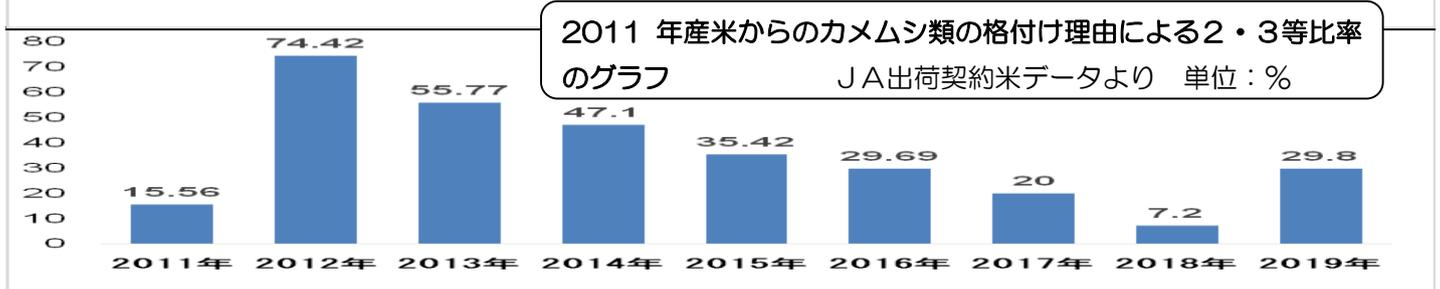
2011年からの京都における月別最低気温（12月・1月・2月）のグラフ 単位：℃

図：1

※特に2019年は、12月～2月の最低気温が前年に比べ暖かい状況となっております。
気象庁過去のデータより



2011年産米からのカメムシ類の格付け理由による2・3等比率のグラフ J A出荷契約米データより 単位：%



水稲では、図：1、2のとおり2019年産米のカメムシ類による格付けで品質を低下させた要因は、暖冬の影響によるカメムシ類の越冬成虫が多かったこととされます。

2020年冬期は、図1のとおり、昨年より更に温暖であることから、特に注意が必要です。色彩選別機も普及しておりますが、圃場での防除も必ず行ってください。

管内の西南部地域で発生している大型のミナミアオカメムシには、特に注意が必要です。

※水稲以外の野菜・果樹類等も暖冬の影響による害虫の発生量に注意が必要です。



◆ミナミアオカメムシとは、本州南部、熱帯地方など暖かい場所に広く分布するアオカメムシの典型的な種の一つ。32科145種以上の植物に寄生し、イネ科、マメ科、ナス科、アブラナ科、果樹類など多くの作物を加害します。（きゅうり、ねぎなど）水稲では、開花直後から収穫時まで登熟期間を通じて加害し、一般カメムシ類の約2倍の被害を発生させることが知られています。

カメムシ類の防除は、スタークル粒剤、スタークル豆つぶでは、出穂後穂が傾き始めた頃に、キラップ粒剤では出穂期に、施用します。詳しくはJA担当者までご相談ください。